

[ 北海道の医師の状況 ] 2次医療圏別格差 (平成20年末)

(単位:人)

区分	全国	北海道				
		全国	市部	町村部	最高圏域	最低圏域
医師数	286,699	12,477	11,433 (91.9%)	1,014 (8.1%)	札幌圏 6,371	南桧山圏 34
人口10万対	224.5	224.9	257.3	94.4	上川中部圏 317.5	根室圏 91.2



圏域	人口10万人対 医師数
1 上川中部	317.5
2 札幌	275.0
3 南渡島	222.6
4 中空知	206.4
5 西胆振	201.5
6 北空知	195.1
7 後志	191.2
8 南空知	169.6
9 十勝	167.7
10 上川北部	165.1
11 東胆振	162.9
12 北網走	159.8
13 釧路	158.9
⋮	↓
21 根室	91.2

↑ 10万人対医師数が全道平均を上回っている圏域

全国: 224.5人  
全道: 224.9人  
後志: 191.2人

道内の医師数は、市部に約9割が集中しており、全道の医師の約半数を札幌医療圏が占めています。

平成22年4月北海道保健福祉部公表「北海道の地域医療の現状」資料から抜粋

このような現状の中、但知安厚生病院の経営状況は、常勤医のいない診療科や24時間体制の救急医療の確保などのため、出張医の派遣経費が増大となり、平成18年度から赤字額が膨らんできています。ご意見ポストにありました新聞報道については、羊蹄山麓7力町村などで構成されている「但知安厚生病院医療機能検討協議会」などで、増大する赤字解消の検討のため、元となるひとつの「案」として示されたものと認識をしております、これから各町村や関係機関と赤字額の軽減や助成について、検討をしていくこととなります。

また、但知安厚生病院は、羊蹄山麓地域住民の医療の重責を担うセンター病院でありますので、行政としても救急医療や小児科・産科体制整備などのために、「但知安厚生病院運営委員会」や「但知安厚生病院医療機能検討協議会」などで協議を続けておりますので、移住希望者や羊蹄山麓町村の観光客の安心安全を支えるためにも、総合病院としての機能維持や医師確保に向け、関係機関に要望をしていきたいと考えています。

救急医療を守るために

救急患者が迅速に診療を受けるため、また病院の医師の過度な負担を食い止め、地域の医療機関を守るために、適正な利用を心がけましょう。

・日頃から「かかりつけ医」を持ち、相談しながら適切な医療機関で受診しましょう。

・健康管理に努め、具合が悪い場合は、医療体制の整った平日の昼間に受診しましょう。



・子どもの症状は急変するため、気になる症状があれば、医療体制の整った平日の昼間に受診しましょう。

(夜間や休日は専門医が対応できない場合があります。)

今月号の折り込みチラシにもあるように、軽い症状の場合は夜間や休診日の時間外の受診を控えるなど、通常の時間内の受診にご協力をお願いいたします。